令和７年度　第２回　花川小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和７年７月３０日（水）　１４時００分から１５時５５分まで
２　開催場所　　花川小学校　２Ｆ　会議室
３　出席委員　　高倉　学、武田　則治、佐々木　聡、長谷　寿美子、名倉　招司、
　　田中　朋子、高倉　毅文、松下　悠里
４　欠席委員　　牧澤　和美
５　学　　校　　池野　由香里（校長）、中村　敦（教頭）、職員８名
　　中村　好明（ＣＳディレクター）
６　傍　聴　者　　なし
７　会議録作成者　　ＣＳディレクター　中村 好明

８　議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、佐々木委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

９　協議事項

（１）学校の抱える課題と改善策
　①小規模特認校について
　②来年度の運動会について
（２）いじめ問題について
　・いじめ問題の現状
　・取り組み～しなやかにたくましく生きる子（レジリエンス）
　・「いじめから子供を守るために～学校・家庭・地域それぞれの立場でできること」
　　（３グループに分かれて）

10　会議記録

司会の中村（教頭）から、委員総数９人のうち８人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）学校の抱える課題と改善策

①小規模特認校について

議長の指示により、池野（校長）から、別紙資料に基づき小規模特認校について説明があり、委員から以下の発言があった。

・これまでの成果が出てきているので、この計画でよいのではないか。（高倉毅委員）
・「就学説明会」を行っていただいてよかった。（松下委員）

②来年度の運動会について

議長の指示により、池野（校長）から、別紙資料に基づき来年度の運動会について説明があり、委員から以下の発言があった。

・ＰＴＡなどが、運動会の準備をするためにもこの計画のほうがよい。（田中委員）

（２）いじめ問題について

議長の指示により、中村（教頭）から、別紙資料とスライドに基づきいじめ問題について説明があった。そのあと、委員・保護者・職員がそれぞれ入ったグループを３組作り、グループで話し合いを持ち、全体会で発表があった。

Ａグループ（長谷委員、名倉委員、松下委員、保護者１名、職員３名）

- スライドは理想的であったが、現実にはなかなかむずかしいところがある。（名倉委員）
- 花川小のいじめの具体例を知りたい。（保護者）
- 上靴を投げて近くの子に当たった。落ち着いてからごめんねと謝った。（職員）
- 浜松市への報告の主体はいじめられた子である。（職員）
- 単発でもいじめなのか。（松下委員）
- いじめ解消のためには、いじめ行為が少なくとも３か月以上止んでいる等、いくつかの条件がある。（職員）
- いじめと認知すると、聴き取りをする。聴き取りは、休み時間に行うことがある。（職員）
- いじめは昔と違う。相手がいやだと思ったらいじめである。（長谷委員）
- レジリエンスを学び、相手のことを思いやる。自分を守ることにもなる。すべてをマイナスにとらえない。（職員）
- 特性や家庭環境等、一人一人の子供に背景があるので、教師が共通理解をして指導してほしい。（名倉委員）
- 小規模特認校なので、いろいろな子がいる。思いやりのある付き合い方を学んでいる。（長谷委員）
- いじめている子も傷ついている。（保護者）
- 読み聞かせの時は良い子であるが、放課後児童会では教師の前と違う一面が出る。（長谷委員）
- 粘土の制作で、特性のある子が水をまき散らす。周りの子は思いやりの中で我慢している。（名倉委員）
- やり返してもエスカレートしてしまう。（職員）
- 社会のルールを身に着けておいて欲しい。（長谷委員）

Ｂグループ（高倉毅委員、武田委員、中村（教頭）、保護者１名、職員２名）

- 娘２人とも学校が好きである。ネガティブな話は聞かない。いやなことがあった場合は、家庭で言わせるようにしている。（保護者）
- いじめの話は出てこない。学年関係なく交流がある。（高倉毅委員）

- 縦割り活動や学年を越えた交流があるため、雰囲気はよいと感じる。心身の苦痛を感じるという部分がなかなか見つけにくい。（職員）
- 先生と児童の距離が近いと感じる。（高倉毅委員）
- いじめを受けたときに。自分から言えない子が多い。自分で言わせることが大切だと思う。いじめに対する対応は良くなってきているが、なくならない。（武田委員）
- この学校は、中学校に入ると人数差から生じるギャップがあるが、うまく行っている。（高倉毅委員）
- 先生方が、休み時間に遊んでくれるのがよい。去年の担任等にも相談しあえるような関係でありたい。（保護者）
- 人数が少ないから教員と児童の距離が近いが、それに甘えず、しっかりと子供を見ていくことが大切である。（中村（教頭））
- 私たちも、学校に様子を伝えていくことが大切である。我慢している子は難しい。（高倉毅委員）
- 親も子も日々接する中で、少しでも違和感があったら、学校に連絡することが大切である。いじめゼロは難しい。早期発見で重症化を防ぎたい。（保護者）
- 学校だけでなく家でも様子を見て欲しい。小さなことでも、見逃さず認知したいが難しい。（高倉毅委員）
- いじめに関して、傍観者はいけないと伝えることも大切である。困ったら声を出させたい。（中村（教頭））
- 仲間がいることが大切だと思う。孤立させてはいけない。（高倉毅委員）
- 困りごとが言えるような環境作りが大切だと思う。また、簡単に潰されない心をはぐくむことも大切である。（保護者）

Ｃグループ（佐々木委員、田中委員、保護者１名、職員３名）

- 特に大変だと思うのは、相手がいじめと感じたら、それがいじめになるということ。発見はアンケートからが多いというが、１～３年生はしっかり書けるか疑問である。（佐々木委員）
- 今のいじめの定義だと悪用されてしまうのではという懸念がある。やっていないのにやったとされてしまうのではないかと心配である。（保護者）
- 保護者から気になることを言ってもらえると、思い返したり、様子を気にかけたりできるので助かる。学校としても小さな変化でも、気が付けるよう、見逃さないよう心掛けている。同じことでも個々で受け取り方が違うため、コミュニケーションが大切だと感じる。（職員）
- 中学校からSNSでのトラブルが多発していると連絡が届いた。目の届かないところで起きることもあるため、怖いと感じる。ちょっとした出来事でも、心の奥底まで傷つけていることもあるから、言葉って怖いと思う。気を付けなくてはと感じる。（田中委員）
- ５０代でもメールのやり取りでけんかになることがある。顔を見ないコミュニケーションは大人でもトラブルになりやすい。SNSでのトラブルは子供からしたらより傷つくと思う。

（佐々木委員）

- 定義が難しい。善意もいじめになる可能性がある。（職員）
- 発展しすぎたら、他者に何も介入できなくなってしまう。（保護者）
- 先生が子供や保護者とのつながりがあるので、出せるところが花川の良さであると感じる。（職員）
- 高学年は特に担任に言いづらいのではないかと思う。「ごめんね」「いいよ」で解決しないこともある。（職員）
- 聞き取りで本音を言えるのか疑問である。（職員）
- すぐに言ってくれた方が、解決しやすいと日々伝えている。ただ、全部大人が入るのが良いのか迷いがある。（職員）
- 子供が「いじめられた」と訴えることはあるのか。（佐々木委員）
- 「いじめられた」というより「いやだった」ということが多い。アンケートだと、それが「いじめ」になる。子供が「いやだ＝いじめ」と捉えるかは分からない。（職員）
- 「いじめられている」とは言いにくいのではないかと感じる。（保護者）
- 子供は「いじめ」というものをはっきり分かっていないと思う。（田中委員）

会長感想

グループ協議の形式を行ったのは今年で３回目となる。今回は難しいテーマであるが「いじめ」を取り上げた。

いじめの原因はやはり人間関係が重要であると思う。子供は家庭の中でも孤立化している。外の活動などに出ていかない。

親は子供が加害者なのか、被害者なのかしっかり確認してほしい。学校は事実関係をしっかり把握してほしい。

世の中の大きな声を出したもの勝ちという雰囲気も問題である。

校長感想

多くのボランティアの方が学校に入っていただいて、子供たちに声を掛けてくださり本当にありがたい。これがいじめ防止につながっている。

子供たちは思いやりがあるので、問題があっても翌日には一緒に遊んでいる姿を見るとホッとする。

本校には人と違ったところを指摘するようないじめはない。

学校はつらい気持ちに寄り添い、社会に出ていく力つけさせたい。そのためにも学校が子供たちに安心・安全な場所になるよう学校・地域・家庭が協力して作っていきたい。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和７年１１月４日（火）午後２時から２階会議室で開催する旨の報告があった。